

CVT フルードチェックセンサー機能 「対象外油種」のお知らせ

日頃は弊社製品をご愛用いただきまして、誠にありがとうございます。

さて、弊社が製造しております全自動 CVT&AT フルードチェンジャーの CVT フルードチェックセンサーの一部機能において、適正な診断（フルード交換間診の目安）が行えない可能性のある油種があることが判明いたしました。

近年、各カーメーカーは、より高性能・低燃費な車両の開発に向けトランスミッションが多種多様化、同時に対応するフルードも様々な仕様のフルードが開発されております。以前は、ATF・CVTF＝「赤色」のフルードが一般的でしたが、最近では「緑色」、「青色」、「薄黄色」など、新色のフルードが、次々と新型車に使用されています。

その中でも、CVT フルードチェックセンサー機能開発後に発売されたメーカー純正油

- スズキ：CVT フルード GREEN2
- 日産：CVT フルード NS-3
- 三菱：ダイヤクイーン CVT フルード J4+（プラス）

につきましては、フルード色が「青緑色」で、非常に色素が濃い特徴のあるフルードです。

CVT フルードチェックセンサーは、複数のセンサーでフルードの状態を診断（目安）する機能ですが、その中の1つにフルードの色素・汚れ状態を把握するセンサーがあり、「キレイなフルード」＝グリーンゾーン（良好）・「汚れているフルード」＝レッドゾーン（要交換）という様に診断を行っています。そのため、上記の様な「極端に色素の濃いフルード」を診断しますと、新油の状態でもセンサーの測定に影響を及ぼし、「良好」と「要交換」の中間、「イエローゾーン（注意）」と判断する恐れがあります。機能の特性上、上記フルードにつきましては正しい判断が行えないため、CVT フルードチェックセンサーの対象外とさせていただきますことを、ここにご案内させていただきます。

このことを踏まえ、弊社としまして上記フルードチェック専用ツール「CVTF・デジタルチェッカーEcoGreen（型式：AMC-75CG）を簡易的なフルード販売促進ツールとしてラインナップに追加、平成27年4月より販売を開始致します。

本件につきましてご不明な点がございましたら、大変お手数ですが弊社までお問い合わせくださいますようお願い致します。

平成27年4月1日

株式会社トルコン機器